



地域支援センター「みみらんど・郡山」

平成29年度 第2回 きこえとことばの基本研修会



テーマ「コミュニケーションモードについて」講師 石垣太郎教諭



コミュニケーションの目的

○情報伝達・情報共有

→「授業」や「報告・連絡・相談」等
ある情報を伝えることが目的

○情動共有

→情報を伝達したり、共有したりすることよりも、
他者とつながることが目的

例)「今日は、暑いね。」等のたわいのない会話

※集団を通しての学び、社会性の成長、生活の満足などを考えた場合、情動の共有ができるような情報保障こそが大切

はじめに...

1 聞こえの状態を生徒自身が把握できているか。
(教師は生徒の聞こえをどのように評価しているか)

「私は聞こえる」と本人が考えていないか。
「あの子は聞こえている」と判断していないか。

→人工内耳や補聴器は、全ての聞こえにくさを解消する物ではない。

※聞こえの状況を把握することが必要！！

2 コミュニケーション方法の選択

・手話 ・音声言語 ・筆談 ・手話＋口形 etc.
どの方法なら、情報保障がなされるのかを認識する。

言語獲得・授業を理解するための手立て

○聞き漏らしや聞き間違いなど情報の取りこぼしがある

→・口声模倣、復唱、指文字での音声確認、文字での確認
・年齢に応じた言葉遣いや表現を身に付けさせるようなかわり
例)「手を挙げる」→「挙手」など

○他者の考えを知る機会をつくる

→・他の生徒が見えるような机の配置の工夫(馬蹄形)
・他の生徒の発言を復唱させる・質問による理解の確認

子どもたちが自身が、情報を得る
確実な方法を認識し、それを理
解するだけの言語力・思考力を
つけていくことが必要！！



<参加者の感想>

○音が聞こえている＝内容を理解していると感じていた自分にとって、今回の研修は、とても勉強になり参考になることがとても多かったです。

○理解させるための方法や支援などがよく分かり実際に取り入れていきたいと思いました。